



2022年3月7日

SOMPOひまわり生命 健康応援リサーチ 「日本のFemtech（フェムテック）市場の可能性に関する調査」第3回

SOMPOひまわり生命保険株式会社（社長：大場 康弘、以下「当社」）は、2020年3月、2021年3月に引き続き、全国の女性1,000名に対して、世界的に注目を集める“Femtech（フェムテック）”（女性の健康問題をテクノロジーで解決する分野）に関する調査を実施しました。その調査結果について公表します。

1. 背景・目的

当社は、お客さまを健康にする「健康応援企業」の確立を目指し、保険本来の機能（Insurance）に、健康を応援する機能（Healthcare）を加えた「Insurhealth®（インシュアヘルス）」を、新たな価値として提供しています。具体的には、乳がんの早期発見・万が一の保障・治療後のケアまでトータルにサポートする女性のためのがん保険「リンククロスピンク（<https://wwwsp.himawari-life.co.jp/linkxpink/>）」（2018年8月発売）など、女性の健康をサポートする商品やサービスを以前より展開しています。

女性の健康を応援するため、当社は3月8日の国際女性デーにあわせ、昨年引き続き「日本のFemtech（フェムテック）市場の可能性に関する調査」を実施しました。

経済産業省「働き方、暮らし方の変化のあり方が将来の日本経済に与える効果と課題に関する調査報告書」※によると、“2025年時点での月経分野、妊娠・不妊分野、更年期分野におけるフェムテックによる経済効果は約2兆円”（1年間）との試算もあります。Femtech（フェムテック）は、月経・生理といった、女性一人ひとりの身体的・精神的な課題の解決だけでなく、労働人口の減少等の社会課題への解決策としても期待されています。

また、2021年度の流行語大賞にノミネートされるなど、世の中の注目度も高まっている分野で、今後多くの商品やサービスが期待されます。

※出典：「働き方、暮らし方の変化のあり方が将来の日本経済に与える効果と課題に関する調査報告書」（経済産業省）
https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/R2fy_femtech.pdf

Femtech（フェムテック）とは、Female+Technologyを組み合わせた造語で、月経トラッキングや、排卵日予測、不妊治療から更年期障害支援にいたるまでの、【女性のからだ・健康の悩み】をテクノロジー全般で解決を目指す分野のことを指します。

2. 調査結果サマリー

① 日本における Femtech (フェムテック) 認知・期待・利用率

「Femtech (フェムテック)」の認知率は 5.7%と 2021 年の 1.9%から 3.8%アップとなり、世の中の関心の高さとともに、認知率も少しずつ上がっていることが確認できた。また、フェムテックについて、約 6 割が期待できると回答しており、今後のフェムテック関連サービスの更なる盛り上がりが見込まれる結果となった。

② 自由回答から見た働く女性の悩み「月経・生理、妊娠・出産、更年期による身体面・精神面の不調」

1,000 人中 334 件で「月経・生理、妊娠・出産、更年期」に関する悩みが挙げられた（「月経・生理」関連 260 件、「妊娠・出産」関連 39 件、「更年期」関連 25 件）。特に多かったのは、それぞれ月経では「生理痛」や「経血に関するトラブル」、妊娠・出産では「つわり」や「周囲の理解」、更年期では「全般的な不調」であった。

③ 女性特有の健康課題が解決された場合の仕事のパフォーマンスは「+42.01%」

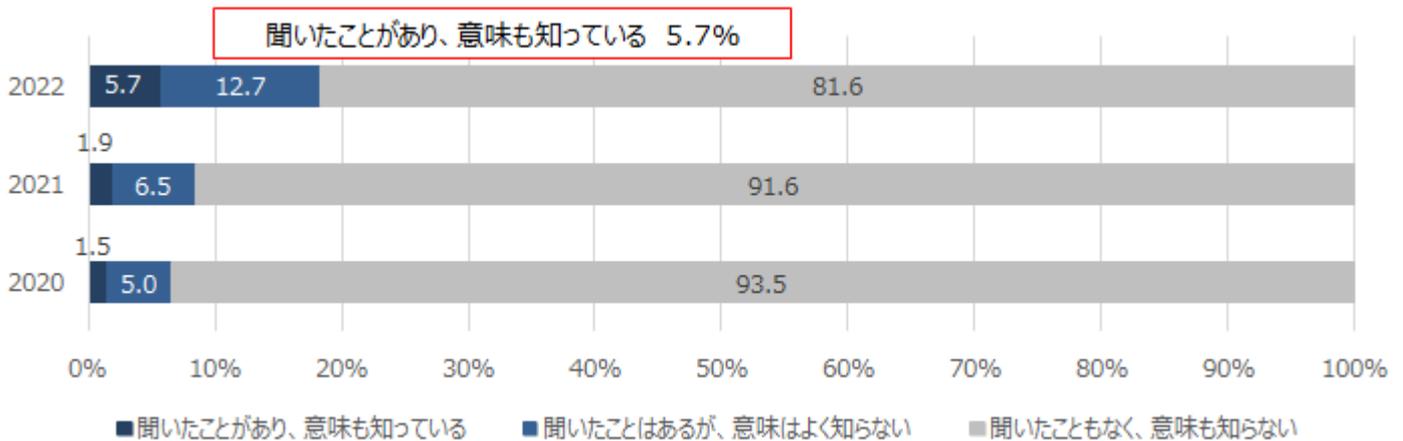
働く上での女性特有の健康課題が解決された場合、仕事のパフォーマンスは平均 42.01%上がると回答（現状を 100 とした場合）。2021 年と同様、女性特有の健康課題の対処に課題を感じている人は多く、それらに対する対策を取ることができれば、現状よりパフォーマンスを発揮できるという期待が感じられる回答となった。

3. 調査結果

①日本における Femtech（フェムテック）認知・期待・利用率

- Femtech（フェムテック）という言葉の認知率は、5.7%と昨年の1.9%から約3.8%アップとなり、世の中の関心の高さとともに、認知率も少しずつあがっていることが確認できた。
- その一方で、女性の体・健康の悩みのサポートを行うアプリや Web サービスの利用実態を尋ねたところ、何らかのサービスを使用していると回答したのは全体の54.6%（昨年+28.2%）であった。「フェムテック」という言葉の認知率向上とともに、フェムテックにまつわるサービスの利用実態が向上している様子が伺える。
- 「フェムテック」に対する期待は57.3%と、昨年同様の高水準がみられている。

Q. あなたは Femtech（フェムテック）という言葉を知っていましたか。（ひとつだけ）【N=1000（全体）】



Q. 悩みのうち、すでにアプリや Web サービス等、何らかのテクノロジーを使ったサポートや解決手段である、Femtech（フェムテック）のサービスを利用している分野はありますか。すでに利用しているものを次の選択肢からいくつでも選択ください。（いくつでも）【N=1000（全体）】

	2020	2021	2022
全体	1000	1000	1000
月経・生理にまつわる精神的な悩み	6.3	6.2	5.9
月経・生理にまつわる身体的な悩み	10.1	9.8	9.1
将来、妊娠を望んだタイミングで妊娠できるかという悩み*	-	2.9	2.7
妊活（今、またはごく近い将来に妊娠を希望している）にまつわる悩み**	3.5	2.7	2.3
不妊治療にまつわる悩み*	-	1.0	1.6
避妊にまつわる悩み	1.4	1.2	1.6
更年期・年齢を重ねて生じる女性ホルモンのゆらぎによる悩み	5.5	4.6	2.9
出産・産後・母乳にまつわる悩み	2.0	2.4	1.3
育児に関する悩み（子供のこと）	2.5	3.0	2.1
育児に関する悩み（自分のこと）	1.8	1.8	1.4
乳がんをはじめとする女性特有の疾病の予防・早期診断	3.4	3.3	3.0
乳がんをはじめとする女性特有の疾病の治療	3.0	3.1	2.3
ダイエット等の体型管理に関する悩み	5.8	5.5	5.2
運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み	5.7	6.5	6.5
精神的ストレス	5.9	7.0	6.1
その他	0.6	0.4	0.6
利用していない	73.6	73.6	76.3

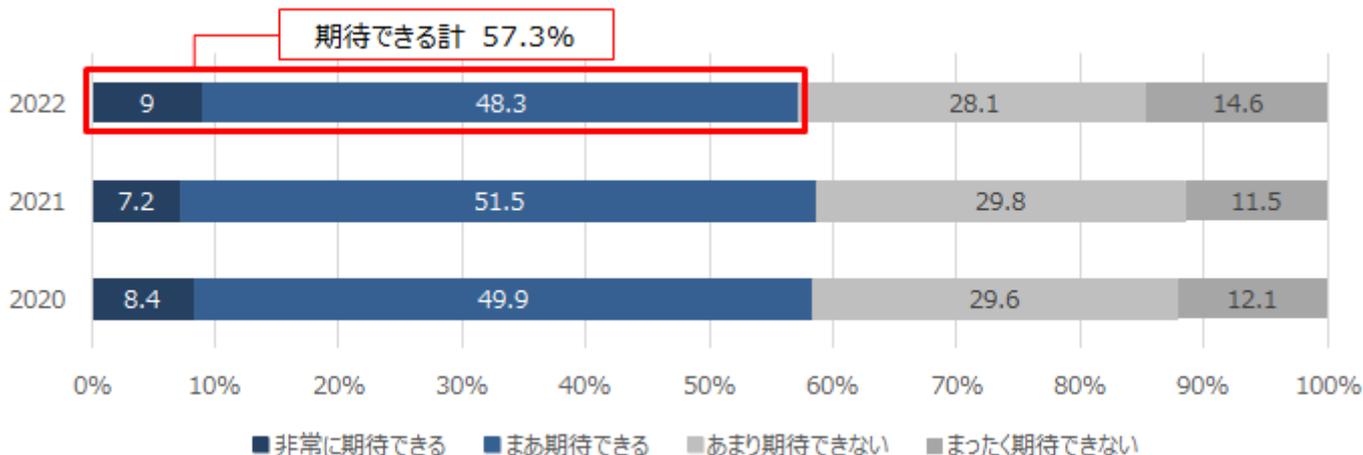
サービスを使っている計
54.6%

*2021年調査より新設

**2020年は「妊活にまつわる悩み」として聴取

(%)

Q. スマホを活用した健康管理や、妊娠予測などを含め【女性のからだ・健康の悩み】を助けてくれる Femtech (フェムテック) の取り組みについて、どの程度期待しますか。(ひとつだけ)【N=1000 (全体)】

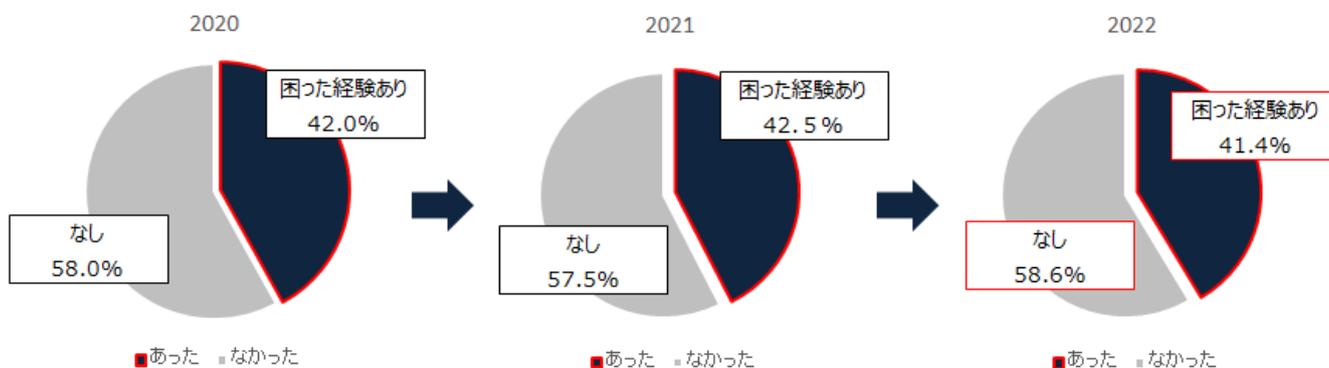


②自由回答から見た働く女性の悩み「月経・生理、妊娠・出産、更年期による身体面・精神面の不調」

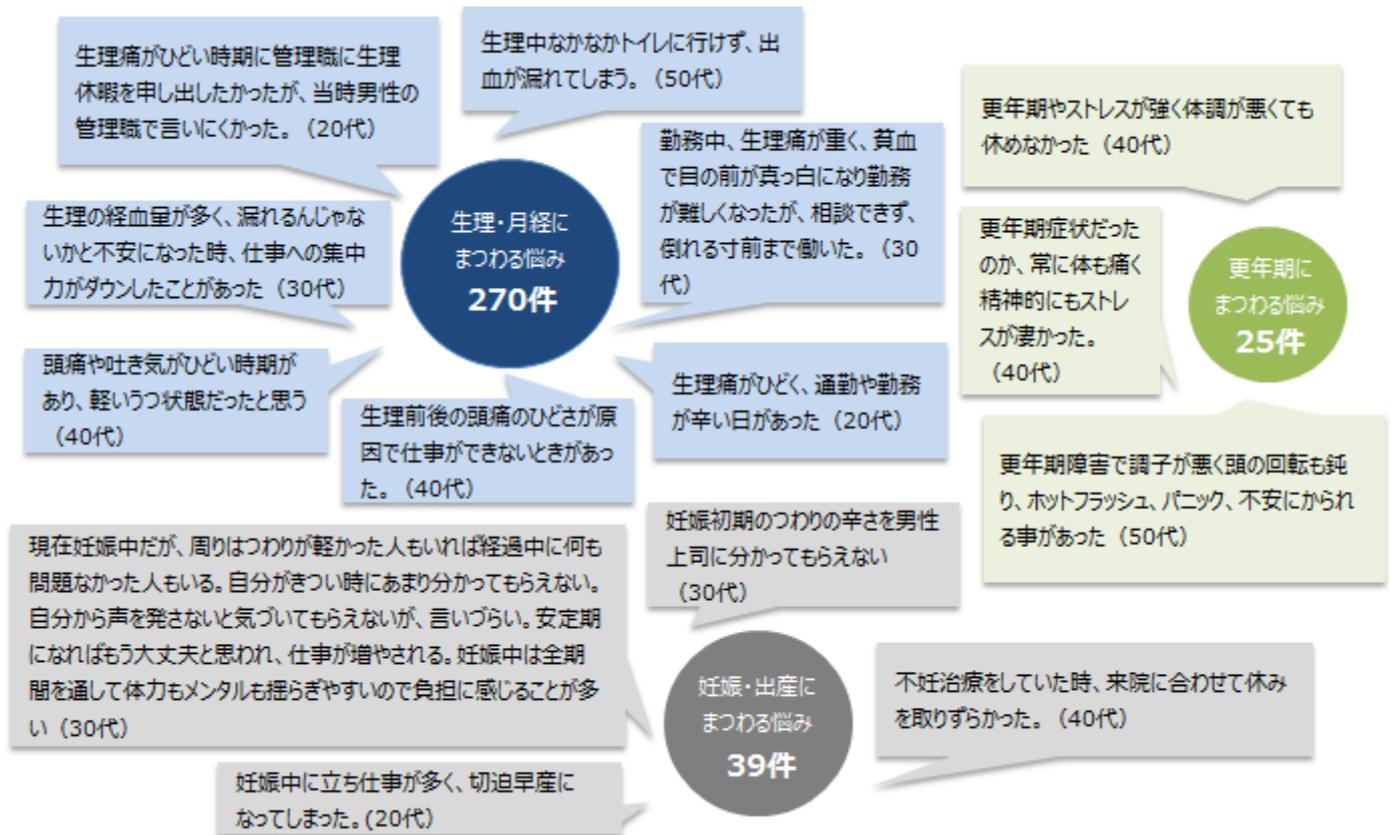
自由回答を見ると、2021年と同様に、女性は月経・生理、妊娠・出産、更年期に伴う身体的・精神的苦痛といった悩みを抱えているものの、周囲に相談したり、理解を求めたりすることが難しい様子が伺えた。

- 自身の「女性のからだ・健康の悩み」が原因で働いていて困ったと回答した人は41.4%と、昨年の42.5%とほぼ変わらなかった。
- 2022年の自由回答の内容を見てみると、2021年と同様、働く女性の悩みとして最も多く挙げられていたのは「月経・生理」にまつわるものであり、1,000人中270件の回答があった。具体的には、「生理痛」「経血の多いときの心配」「悩みをまわりが理解してくれないこと」を上げる人が多かった。
- 「妊娠・出産」にまつわる悩みでは、1,000人中39件の悩みが挙げられ、特に「つわり」や「不妊治療」、「周囲の理解」に関するコメントが多くみられた。
- 「更年期障害」にまつわる悩みでは、1,000人中25件のコメントがみられ、2021年同様「突然の発汗やめまいなどの肉体的な辛さ」と「精神的な不安定さによる辛さ」がそれぞれみられた。

Q. 自身の【女性のからだ・健康の悩み】が原因で、働いていて困った経験はありますか。(ひとつだけ)【N=1000 (全体)】



Q. 働いていて困った経験は、どのような状況ですか。(自由回答)【n=414 (困った経験がある人)】



④ 女性特有の健康課題が解決された場合の仕事のパフォーマンスは「+42.01%」

- 月経・生理、妊娠・出産、更年期による身体面・精神面の不調等、女性特有の健康課題が解決された場合には、平均して“現状より、パフォーマンスは42.01%上がる”との回答であった。数値の高さからは、女性特有の健康課題の解決への期待値の高さがうかがわれる。

Q. Femtech (フェムテック) 等の取り組みで、あなた自身が働く上での女性特有の健康課題が解決された場合、仕事のパフォーマンスはどれくらいあがると考えますか。パーセンテージでお答えください。(数値入力)【N=1000 (全体)】

注) 回答者それぞれが現状を 100%とした場合に、どれくらいパフォーマンスがプラスされるかを 0~100 の幅で回答。その平均値を集計した結果

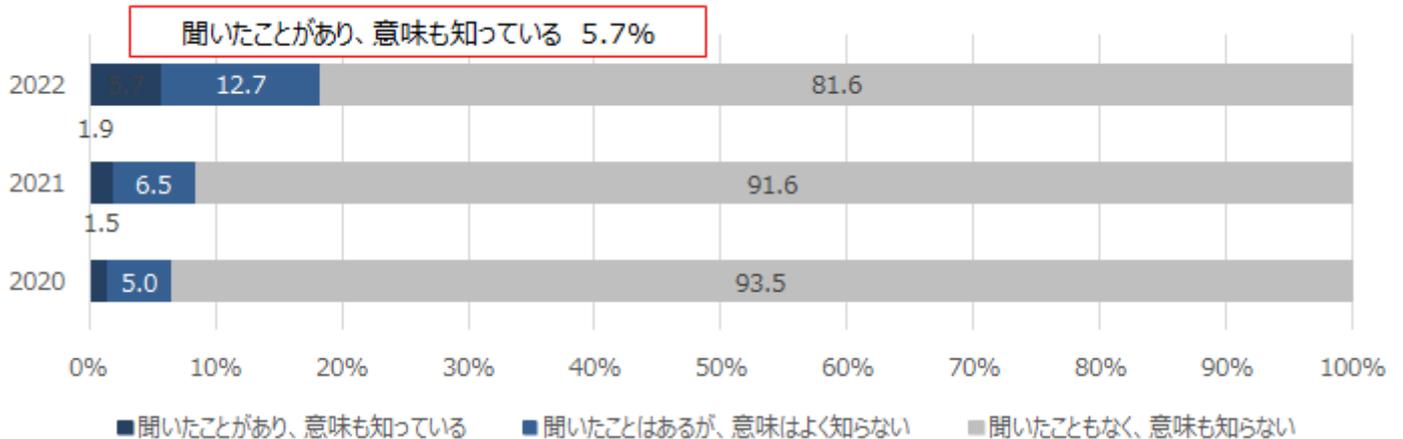


4. 調査結果詳細（昨年比較）

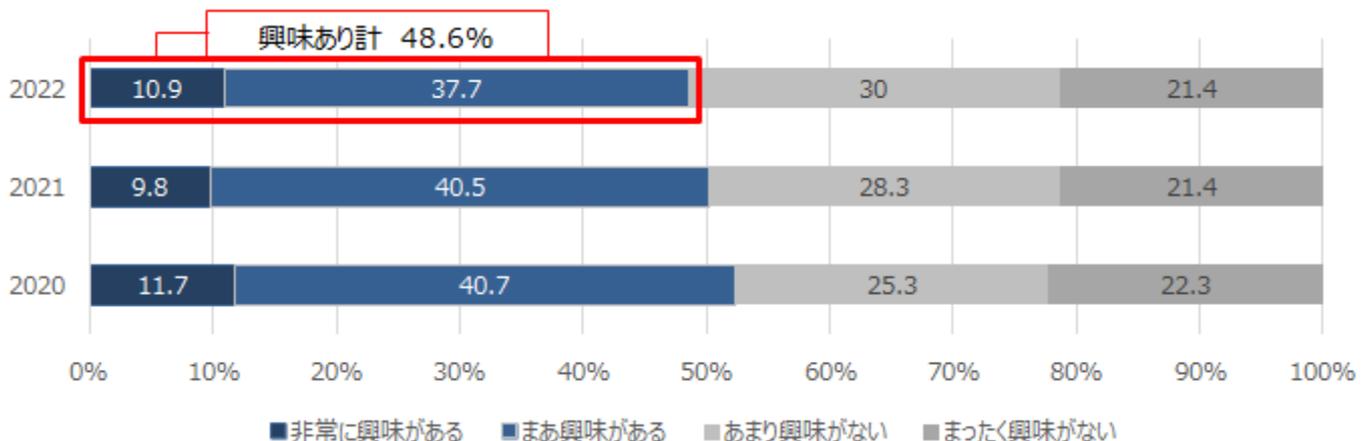
PART1. 日本における Femtech（フェムテック）の認知

- Femtech（フェムテック）の認知度は 5.7%と、昨年の 1.9%から約 3.8%アップとなり、世の中の関心の高さとともに、認知率も少しずつあがっていることが確認できた。
- フェムテックの意味を知ること、全体の約半数以上が「興味」と「期待」を持つ傾向は 3 年連続で同様の結果となった。ただし、2021 年に約 7 割以上の高い興味があった 20 代・30 代で、少し減少している。認知率の向上とともに、今後は具体的なサービス・商品による興味関心を得ることが必要であると推察される。

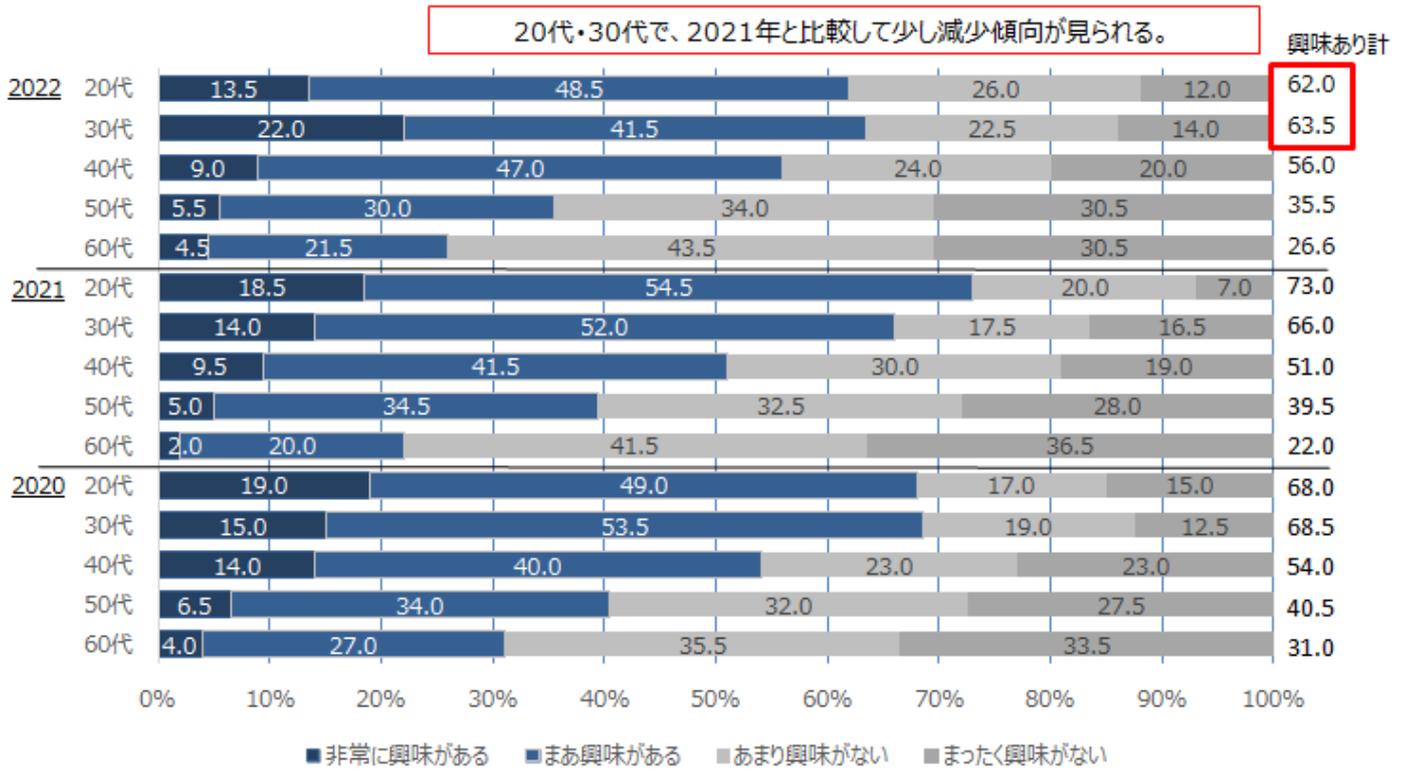
Q. あなたは Femtech（フェムテック）という言葉を知っていましたか。（ひとつだけ）【N=1000（全体）】



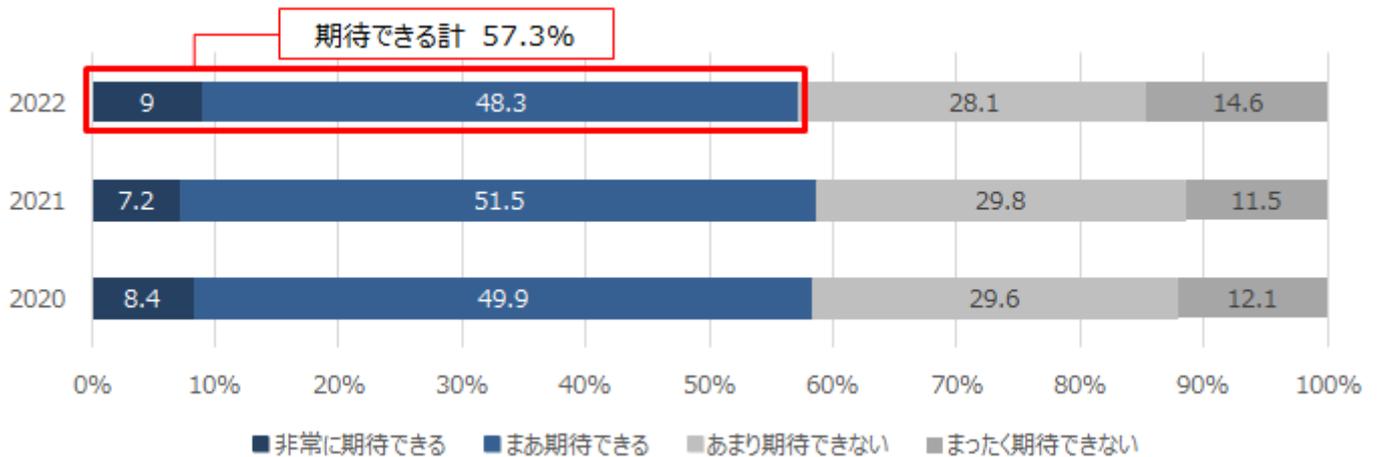
Q. Femtech（フェムテック）の意味を知った上で、Femtech（フェムテック）に対してどのような印象を持ちましたか。（ひとつだけ）【N=1000（全体）】



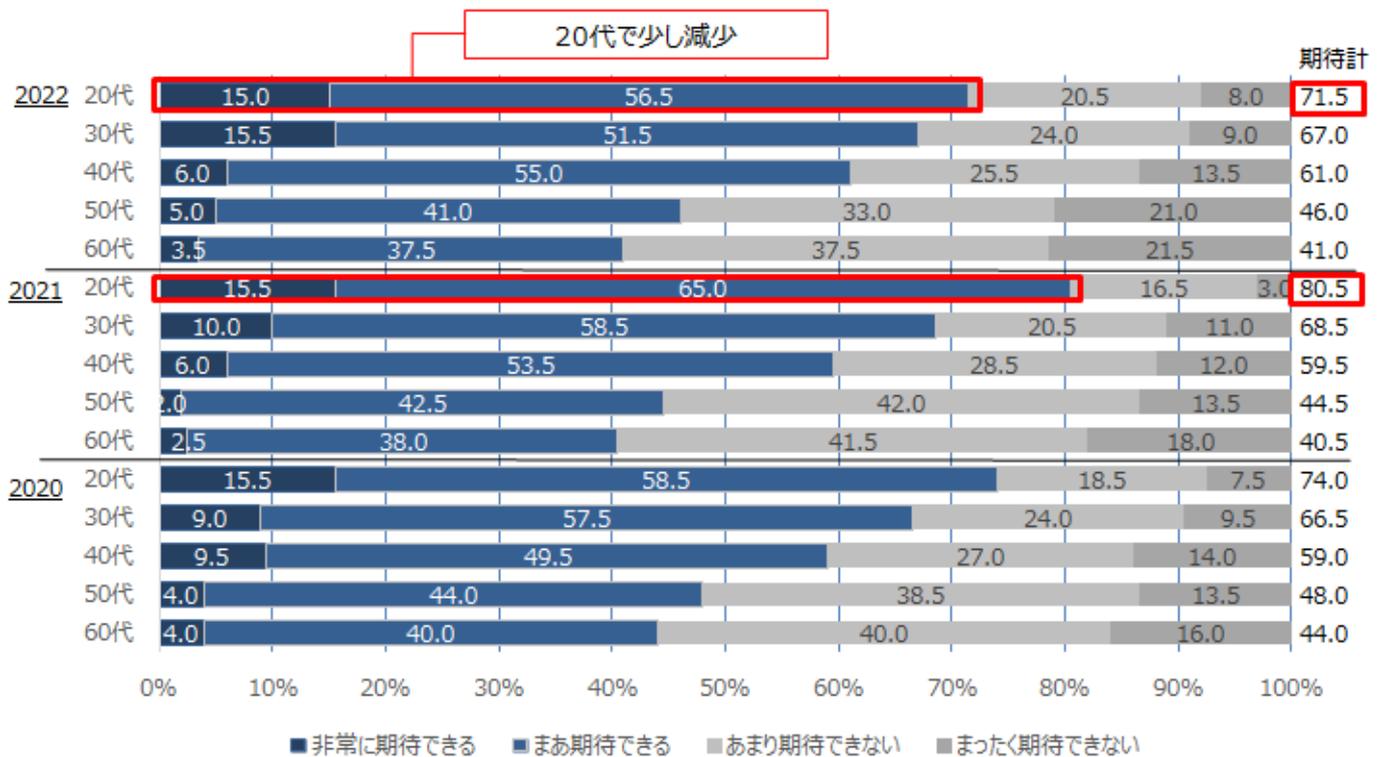
【N=1000（各年代 200名の集計）】



Q. スマホを活用した健康管理や、妊娠予測などを含め【女性のからだ・健康の悩み】を助けてくれる Femtech（フェムテック）の取り組みについて、どの程度期待しますか。（ひとつだけ）【N=1000（全体）】



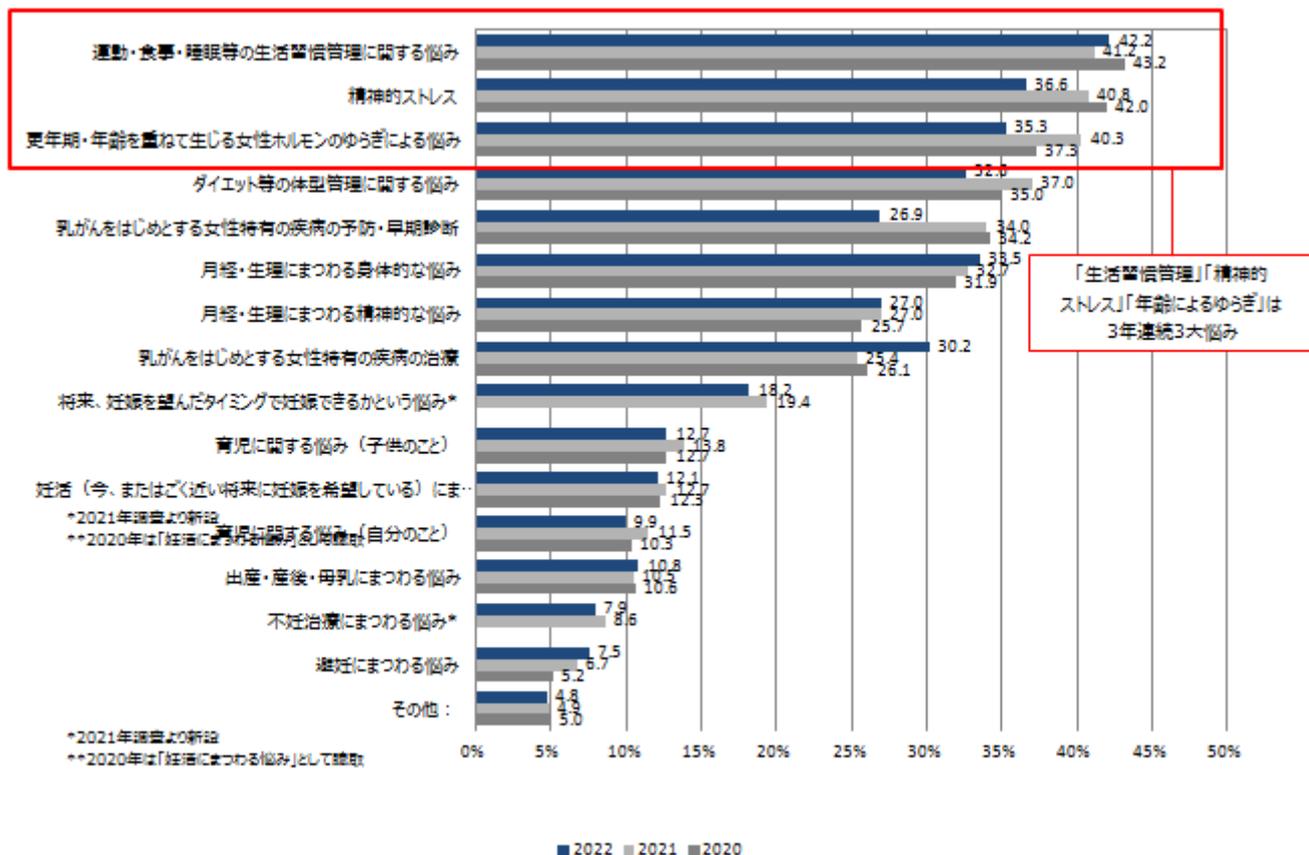
【N=1000（各年代 200 名の集計）】



PART2. 女性の悩み別 Femtech（フェムテック）の現状

- 解決を期待する【女性のからだ・健康の悩み】は、昨年と変わらず1位「生活習慣管理（41.2%）」、2位「精神的ストレス（40.8%）」、3位「更年期・年齢によるホルモンのゆらぎ（40.3%）」。年代別には、20代・30代で月経・生理に関する悩み、40代・50代でホルモンのゆらぎや生活習慣管理に関する悩みが増える傾向が見て取れる。
 - すでに利用している Femtech（フェムテック）関連サービスの分野1位は、「月経・生理にまつわる身体的な悩み（9.8%）」。
- 有料サービス利用率は「体型管理」「生活習慣管理」「精神的ストレス」対策で高め。最も年間平均利用額が高かったのは、「乳がんをはじめとする女性特有の疾病の予防・早期診断（4,455円）」で、同項目は利用額が昨年から2,763円アップした。

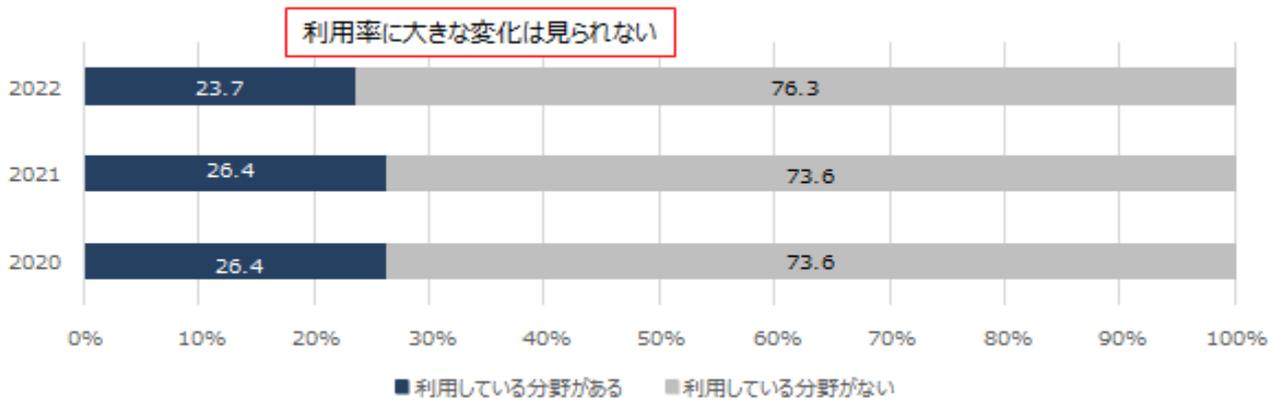
Q. あなたが Femtech（フェムテック）によって解決を期待する【女性のからだ・健康の悩み】はどんなものですか。（いくつでも）【N=1000（全体）】



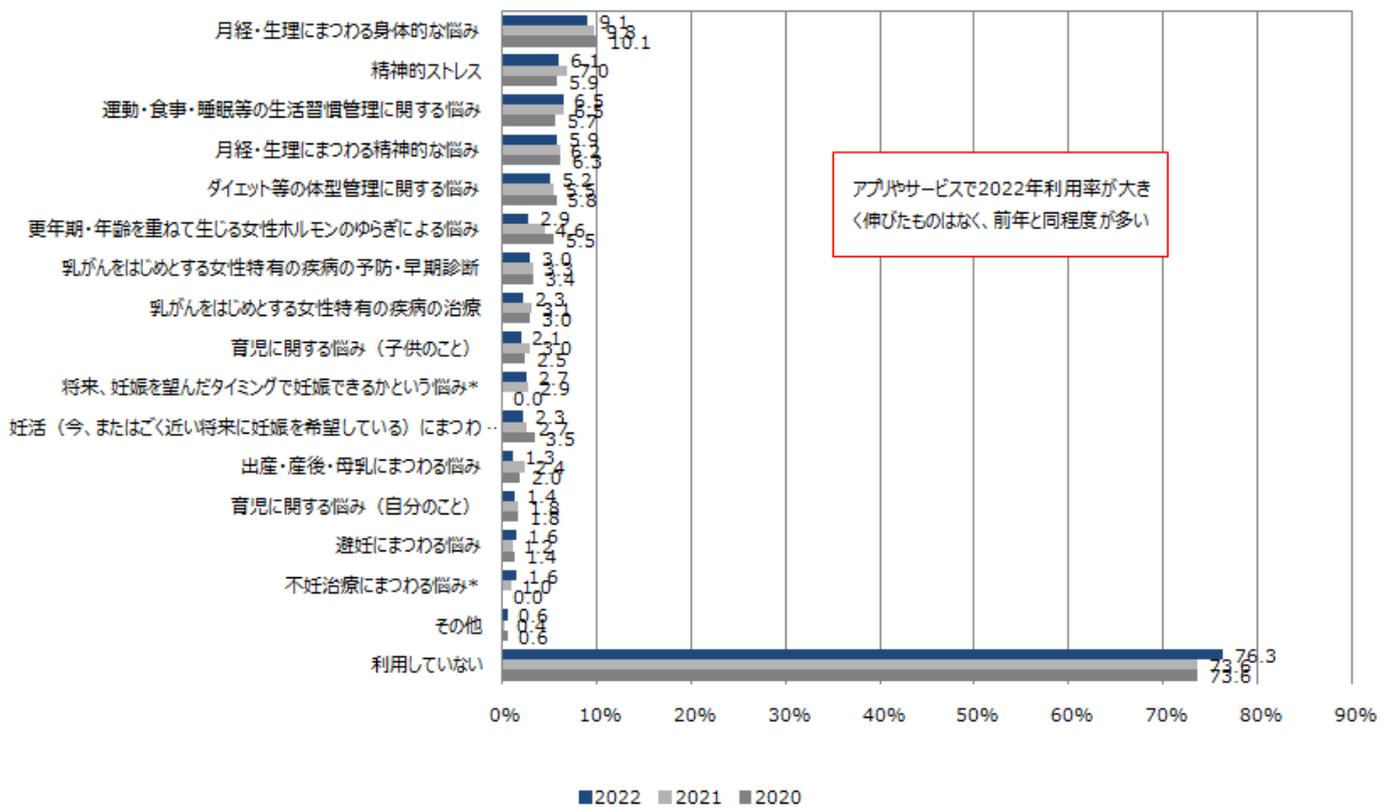
【N=1000（各年代 200名の集計）】

	1位	2位	3位
20代	月経・生理にまつわる 身体的な 悩み 59.5%	月経・生理にまつわる 精神的な 悩み 51.5%	将来、妊娠を望んだタイミングで妊娠できるかという悩み 44.5%
30代	月経・生理にまつわる 身体的な 悩み 48.5%	月経・生理にまつわる 精神的な 悩み 44.0%	ダイエット等の体型管理に関する悩み 41.0%
40代	更年期・年齢を重ねて生じる女性ホルモンのゆらぎによる悩み 49.0%	運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み 40.0%	月経・生理にまつわる 身体的な 悩み 38.0%
50代	更年期・年齢を重ねて生じる女性ホルモンのゆらぎによる悩み 50.5%	精神的ストレス 44.0%	運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み 39.5%
60代	運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み 48.0%	精神的ストレス 40.5%	乳がんをはじめとする女性特有の疾病の予防・早期診断 30.5%

Q. 悩みのうち、すでにアプリやWeb サービス等、何らかのテクノロジーを使ったサポートや解決手段である、Femtech（フェムテック）のサービスを利用している分野はありますか。 ※データ加工済【N=1000（全体）】



Q. 悩みのうち、すでにアプリやWeb サービス等、何らかのテクノロジーを使ったサポートや解決手段である、Femtech（フェムテック）のサービスを利用している分野はありますか。すでに利用しているものを次の選択肢からいくつでも選択ください。（いくつでも）【N=1000（全体）】



Q. それぞれのサービスに年間いくらかの費用をかけていますか。(それぞれひとつだけ)【各サービス利用者】

	2022			2021			2020			比較 (2022- 2021)
	サービス利用率	有料 サービス利用率	年間平均 利用額	サービス利用率	有料 サービス利用率	年間平均 利用額	サービス利用率	有料 サービス利用率	年間平均 利用額	
1.月経・生理にまつわる精神的な悩み	5.9%	2.5%	¥1,763	6.2%	2.5%	¥984	6.3%	2.7%	¥1,754	¥779
2.月経・生理にまつわる身体的な悩み	9.1%	2.6%	¥2,027	9.8%	3.0%	¥934	10.1%	3.9%	¥1,614	¥1,094
3.将来、妊娠を望んだタイミングで妊娠できるかという悩み*	2.7%	0.9%	¥2,704	2.9%	1.4%	¥2,466	(-)	(-)	(-)	¥238
4.妊活(今、または近い将来に妊娠を希望している)にまつわる悩み**	2.3%	1.2%	¥3,348	2.7%	1.4%	¥2,222	3.5%	1.4%	¥5,314	¥1,126
5.不妊治療にまつわる悩み*	1.6%	0.9%	¥7,031	1.0%	0.6%	¥1,200	(-)	(-)	(-)	¥5,831
6.避妊にまつわる悩み	1.6%	0.9%	¥1,750	1.2%	0.5%	¥1,792	1.4%	0.3%	¥1,893	¥-42
7.更年期・年齢を過ぎて生じる女性ホルモンのゆらぎによる悩み	2.9%	1.7%	¥2,552	4.6%	2.1%	¥1,826	5.5%	2.5%	¥1,782	¥726
8.出産・産後・母乳にまつわる悩み	1.3%	0.5%	¥3,154	2.4%	0.7%	¥813	2.0%	0.4%	¥275	¥2,341
9.育児に関する悩み(子供のこと)	2.1%	1.1%	¥952	3.0%	0.8%	¥750	2.5%	0.5%	¥420	¥202
10.育児に関する悩み(自分のこと)	1.4%	0.4%	¥786	1.8%	0.7%	¥1,639	1.8%	0.6%	¥611	¥-853
11.乳がんをはじめとする女性特有の疾病の予防・早期診断	3.0%	1.5%	¥1,633	3.3%	2.0%	¥4,455	3.4%	2.4%	¥1,691	¥-2,821
12.乳がんをはじめとする女性特有の疾病の治療	2.3%	1.2%	¥2,000	3.1%	1.4%	¥1,903	3.0%	1.5%	¥2,267	¥97
13.ダイエット等の体型管理に関する悩み	5.2%	2.0%	¥4,308	5.5%	3.0%	¥2,709	5.8%	2.8%	¥2,526	¥1,599
14.運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み	6.5%	2.9%	¥2,931	6.5%	3.2%	¥3,031	5.7%	2.4%	¥2,175	¥-100
15.精神的ストレス	6.1%	2.9%	¥4,541	7.0%	3.0%	¥2,500	5.9%	2.0%	¥3,924	¥2,041
16.その他	0.6%	0.3%	¥417	0.4%	0.1%	¥125	0.6%	0.2%	¥750	¥292

※集計方法の変更により、2020年の平均額との差分あり
(平均額算出時の母数には0円対価支払者を含む)

※「有料サービス利用率」は1円以上の対価を払っている人の割合

*2021年調査より新設

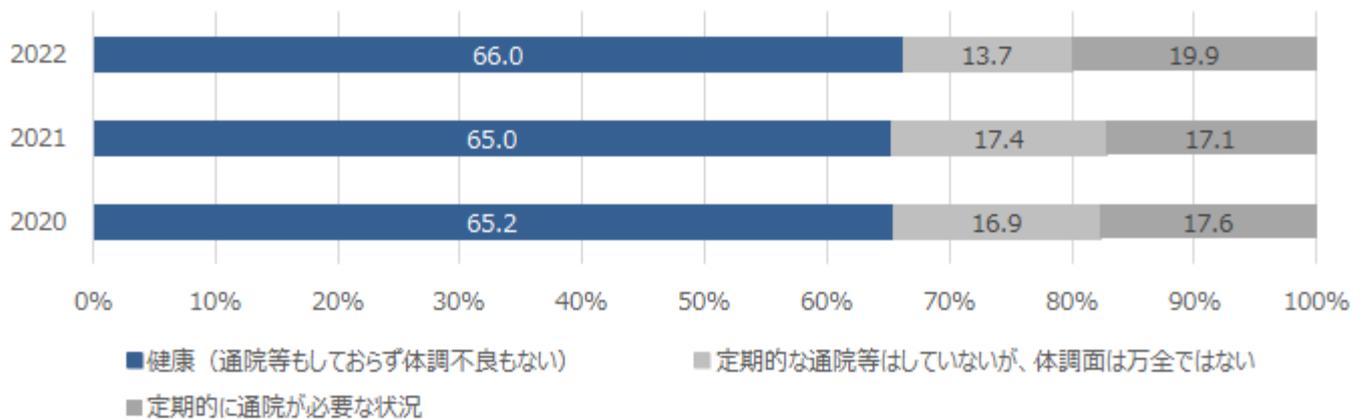
**2020年は「妊活にまつわる悩み」として掲載

2021年と比較して、全体的に平均利用額があがっている。

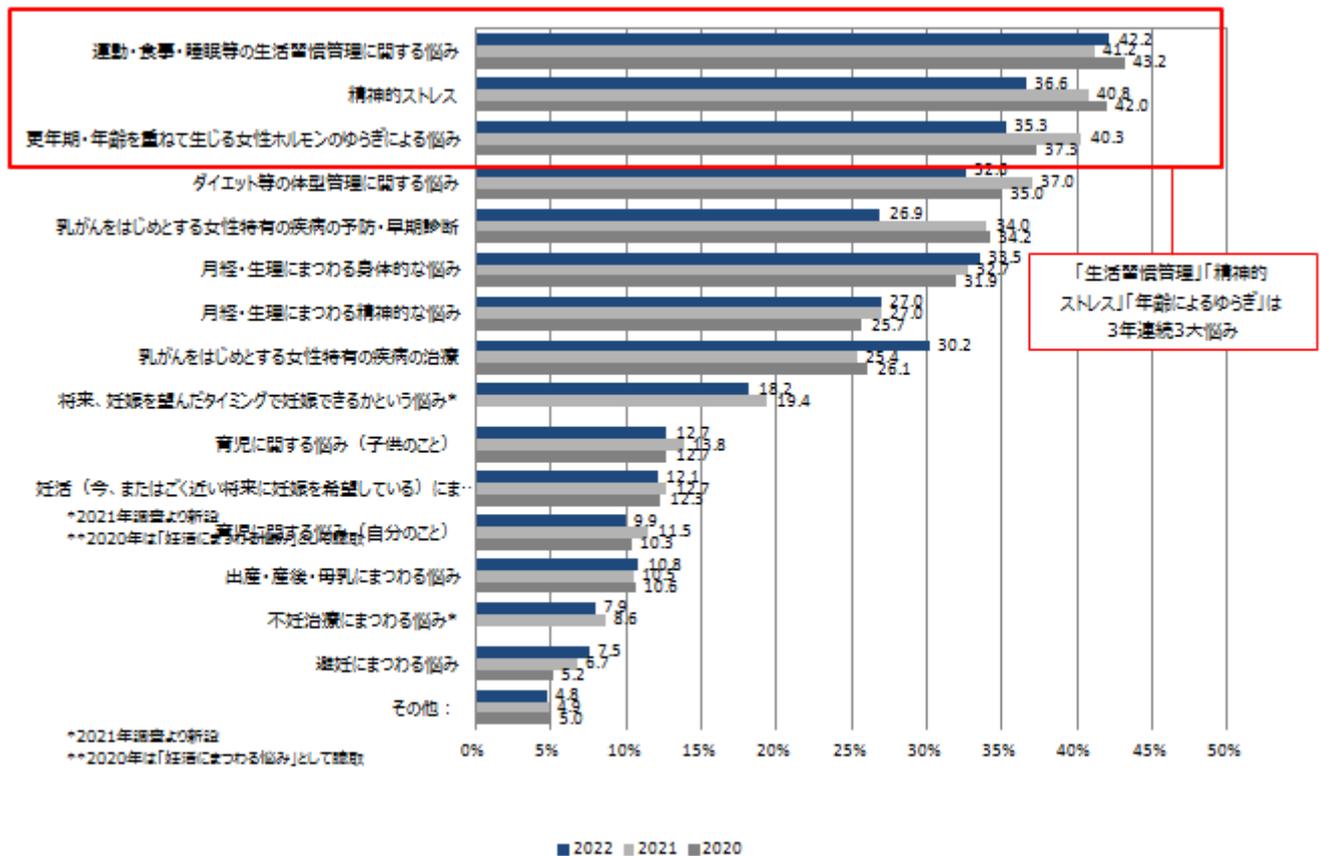
PART3. 働く女性と Femtech (フェムテック)

- 現在の健康状態については、過去2回の調査とほぼ同様の66.0%の女性が「健康(通院等もしておらず体調不良もない)」と回答。
- 働く上での悩みは、昨年同様、全体では「精神的ストレス(20.4%)」「更年期・年齢によるホルモンのゆらぎ(15.6%)」が高く、「運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み(11.6%)」が3位。
- 自身の勤務先が【女性のからだ・健康の悩み】に取り組んでいるかという設問に対し、84.6%の人が取り組んでいると「感じない」と回答し、昨年の85.0%から大きな変化は見られなかった。

Q. 現在のあなたの健康状態について回答ください。(ひとつだけ)【N=1000(全体)】※グラフは「その他」回答を含まないため、合計が100%にならない



Q. あなたが Femtech（フェムテック）によって解決を期待する【女性のからだ・健康の悩み】のうち、特に働く上で課題になっている悩みはどんなものですか。（いくつでも）【N=1000（全体）】

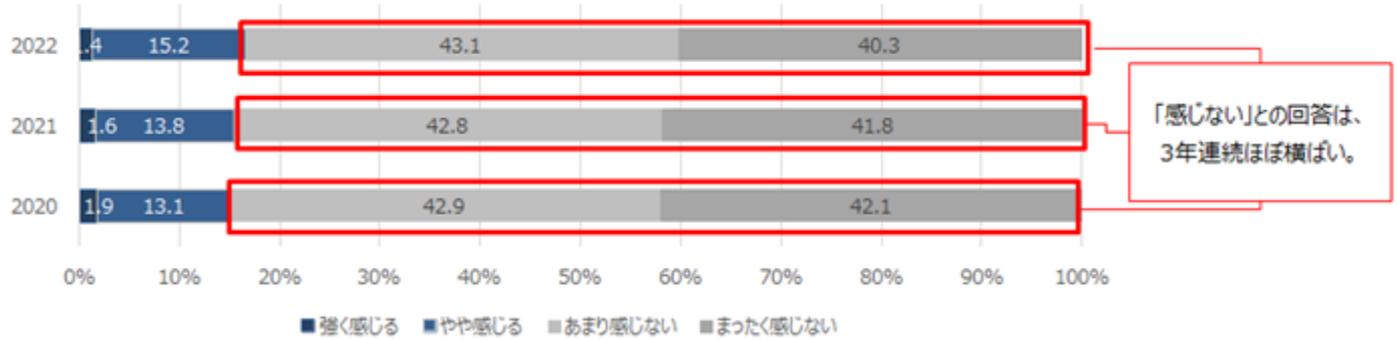


【N=1000（各年代 200名の集計）】

	1位	2位	3位
20代	月経・生理にまつわる 身体的な 悩み 59.5%	月経・生理にまつわる 精神的な 悩み 51.5%	将来、妊娠を望んだタイミングで妊娠できるかという悩み 44.5%
30代	月経・生理にまつわる 身体的な 悩み 48.5%	月経・生理にまつわる 精神的な 悩み 44.0%	ダイエット等の体型管理に関する悩み 41.0%
40代	更年期・年齢を重ねて生じる女性ホルモンのゆらぎによる悩み 49.0%	運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み 40.0%	月経・生理にまつわる 身体的な 悩み 38.0%
50代	更年期・年齢を重ねて生じる女性ホルモンのゆらぎによる悩み 50.5%	精神的ストレス 44.0%	運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み 39.5%
60代	運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み 48.0%	精神的ストレス 40.5%	乳がんをはじめとする女性特有の疾病の予防・早期診断 30.5%

Q. あなたはご自身の勤務先が【女性のからだ・健康の悩み】に何か取り組んでいると感じますか。(ひとつだけ)

【N=1000 (全体)】



Q. ご自身の勤務先が【女性のからだ・健康の悩み】に何か取り組んでいると感じるのはどのような点ですか。(自由回答)【n=166 (取り組んでいると感じる人)】

ダイバーシティインクルージョンの活動の一環として女性活躍推進の活動があり、その活動のセミナーとして女性医師による女性特有の疾患や治療の話を開けたりするので (30代)

不妊治療のための休暇制度が出来た。妊娠中は月に4日有給とは別に休みが取れるなど。(30代)

体調が悪い場合休みやすい (40代)

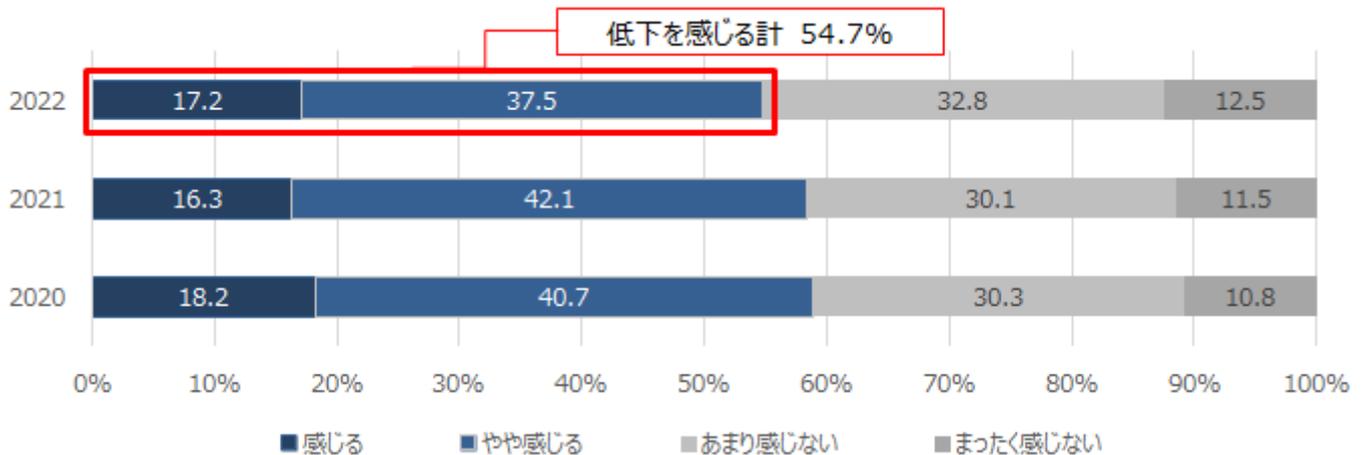
体調に気遣った仕事量に変更してくれる (30代)

女性職員を対象とした乳がん予防の研修などがある (40代)

婦人科医の講演会の案内やワークライフバランスサポートセンターの設置などしている (20代)

- 【女性のからだ・健康の悩み】によって、約6割の女性が仕事のパフォーマンスの低下を感じている。それらの悩みの解決によって改善されると思うパフォーマンスの平均値は+42.01%。
- 勤務先がFemtech（フェムテック）分野のツールを福利厚生で提供してくれるとすれば利用したい人は50.9%。

Q. あなた自身は、【女性のからだ・健康の悩み】によって仕事のパフォーマンスが低下していると感じたことはありますか。（ひとつだけ）【N=1000（全体）】



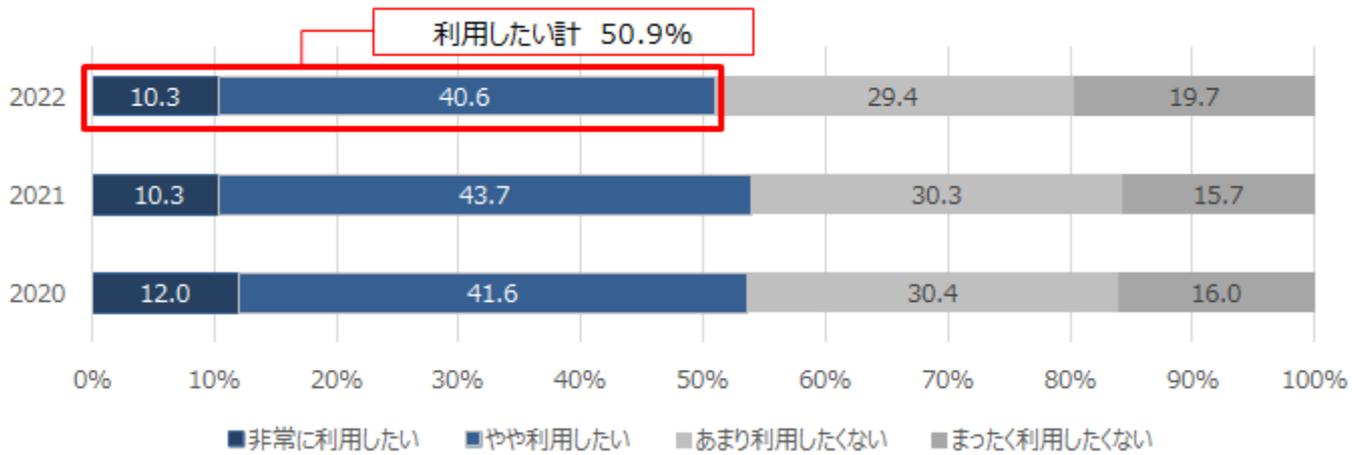
Q. Femtech（フェムテック）等の取り組みで、あなた自身が働く上での女性特有の健康課題が解決された場合、仕事のパフォーマンスはどれくらいあがると考えますか。パーセンテージでお答えください。（数値入力）【N=1000（全体）】

注）回答者それぞれが現状を100%とした場合に、どれくらいパフォーマンスがプラスされるかを0～100の幅で回答。その平均値を集計した結果

現状 **+42.01%** (昨年41.26%)

Q. 【女性のからだ・健康の悩み】について、勤務先が解決のためのツールを福利厚生等で提供してくれるとすれば利用したいですか。（ひとつだけ）

※解決のためのツールとは、例えば「女性のための健康/生活習慣管理アプリ」や「テクノロジーを利用した乳がん等の疾病早期診断補助」などを指します。※原則利用にあたっては匿名性が守られることを前提とします。【N=1000（全体）】



Part4. 今後のFemtech（フェムテック）の可能性

- 今後のFemtech（フェムテック）サービスの利用意向において、有料での利用意向トップ3は「乳がんをはじめとする女性特有の疾病の予防・早期診断(30.5%)」「運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み(30.1%)」。「乳がんをはじめとする女性特有の疾病の治療(30.0%)」
- 全16分野のサービスに対して投下できる費用の合計は1人あたりの年間平均で9,947円となり、月額に換算すると829円。2021年と比較すると年間平均投下可能性金額で1,718円アップしており、サービスに対する期待度が感じられる。
- 投下可能金額が高くなる分野の順位は1位「乳がんをはじめとする女性特有の疾病の治療(1,046円)」、2位「精神的ストレス(875円)」、3位「乳がんをはじめとする女性特有の疾病の予防・早期診断(833円)」となった。また、日常生活に近い「生活習慣管理」や「年齢によるゆらぎ」も、利用意向及び投下可能金額は他項目より高く、700円を超えた（「運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み(726円)」、「更年期・年齢を重ねて生じる女性ホルモンのゆらぎによる悩み(708円)」）

Q. あなたは、今後それぞれ以下の分野のFemtech（フェムテック）サービスが開発されたらそれぞれいくらくらい年間の費用をかけられますか。（それぞれひとつだけ）【N=1000（全体）】

	2022		2021		2020		比較 (2022-2021)
	有料サービス 意向利用率	年間平均 利用意向額	有料サービス 意向利用率	年間平均 利用意向額	有料サービス 意向利用率	年間平均 利用意向額	
1.月経・生理にまつわる精神的な悩み	17.1%	¥456	15.6%	¥298	17.0%	¥355	¥158
2.月経・生理にまつわる身体的な悩み	20.6%	¥607	18.0%	¥342	19.1%	¥397	¥266
3.将来、妊娠を望んだタイミングで妊娠できるかという悩み*	17.9%	¥567	14.4%	¥385	(-)	(-)	¥182
4.妊活（今、またはごく近い将来に妊娠を希望している）にまつわる悩み**	17.1%	¥686	13.7%	¥403	15.7%	¥512	¥283
5.不妊治療にまつわる悩み*	16.6%	¥644	14.1%	¥432	(-)	(-)	¥212
6.避妊にまつわる悩み	13.8%	¥480	11.6%	¥271	12.1%	¥286	¥210
7.更年期・年齢を重ねて生じる女性ホルモンのゆらぎによる悩み	27.3%	¥708	29.5%	¥738	29.2%	¥665	¥-30
8.出産・産後・母乳にまつわる悩み	14.6%	¥443	12.5%	¥313	13.6%	¥403	¥130
9.育児に関する悩み（子供のこと）	14.6%	¥435	13.0%	¥324	15.9%	¥344	¥111
10.育児に関する悩み（自分のこと）	13.9%	¥432	12.4%	¥309	14.2%	¥321	¥123
11.乳がんをはじめとする女性特有の疾病の予防・早期診断	30.5%	¥833	29.7%	¥781	31.2%	¥922	¥52
12.乳がんをはじめとする女性特有の疾病の治療	30.0%	¥1,046	28.3%	¥1,123	31.4%	¥1,123	¥-77
13.ダイエット等の体型管理に関する悩み	25.5%	¥627	24.6%	¥701	27.3%	¥564	¥-74
14.運動・食事・睡眠等の生活習慣管理に関する悩み	30.1%	¥726	27.7%	¥729	30.8%	¥653	¥-3
15.精神的ストレス	29.1%	¥875	27.7%	¥718	29.8%	¥843	¥157
16.その他	12.9%	¥384	10.1%	¥365	10.7%	¥377	¥19

※集計方法の変更により、2020年の平均額との差分あり
(平均額算出時の母数は全体1000人)

*2021年調査より新設

**2020年は「妊活にまつわる悩み」として聴取

2021年同様、「年齢によるゆらぎ」「乳がんの予防・早期発見」「乳がんをはじめとする女性特有の疾病の治療」「生活習慣管理」「精神的ストレス」は有料サービス利用意向が高く、金額も高い

1人あたりの年間平均投下可能性金額の合計 **9,947円** (昨年 8,229円)
1か月あたり **829円** (昨年 686円)

5. 調査概要

調査対象：全国の20代～60代の働く女性1,000名（各年代200名ずつ）

調査手法：インターネット調査

調査期間：2022年2月3日～2月4日

■本調査結果をご利用の場合は、「SOMPOひまわり生命調べ」のクレジットを併記ください。

以上